

序章 環境トピックス

道では、平成28年3月に「北海道環境基本計画[第2次計画]」（改定版）を策定し、重点的に取り組む事項として掲げた「野生生物と共生する社会づくり」、「地域の資源を活用した持続可能な地域社会の形成」及び「豊かな自然の次代への継承」をめざし、様々な施策を実施しています。

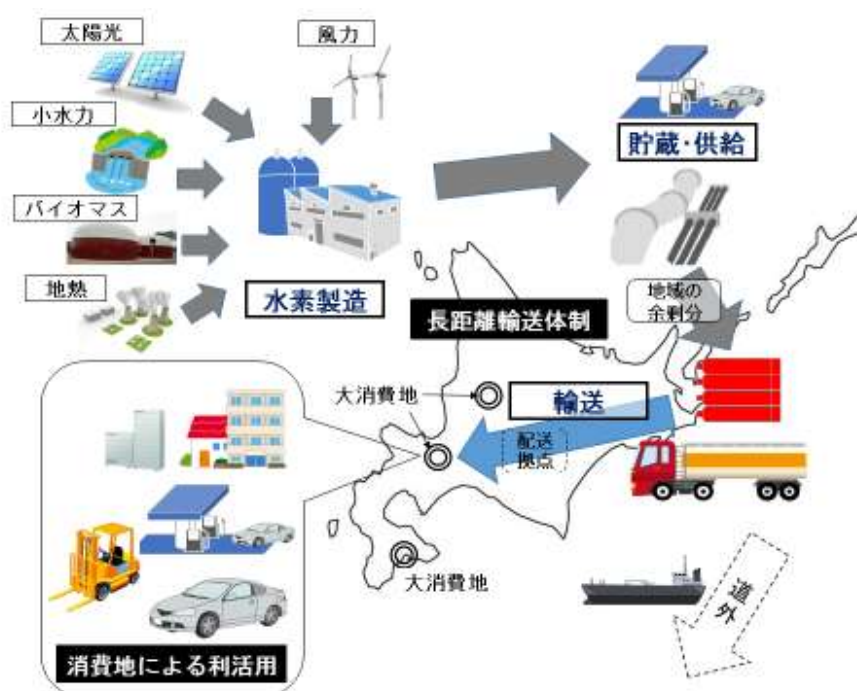
序章では、平成28年度の実施計画の中から、重点的に取り組む事項として掲げた事項を中心に、トピックをピックアップして紹介します。

＝ 1 水素社会の形成に向けた取組

水素は、利用段階で二酸化炭素を排出せず、エネルギー効率が高等いなどの優れた特徴を有するエネルギー源です。水や多様なエネルギー源から様々な方法で製造できるほか、気体や液体、固体（合金に吸蔵）というあらゆる形態で貯蔵・輸送ができるため、送電網が脆弱な地域における新たなエネルギー供給や、災害時のエネルギー確保の観点からも活用が期待されています。さらに、風力、太陽光、水力などの再生可能エネルギーから製造した電力で水を電気分解することで、製造段階においても二酸化炭素を排出しないCO₂フリーの水素の製造が可能となります。

道では、再生可能エネルギーについて全国トップクラスのポテンシャルを有するなどの本道の特徴を活かし、CO₂ 排出量削減等に向けて水素社会の形成を図るべく、「北海道水素社会実現戦略ビジョン」を平成28年1月に策定し、また、ビジョンに掲げる北海道の地域特性を踏まえた水素サプライチェーンの構築を着実に推進するため、当面の手立てとスケジュールを示す「水素サプライチェーン構築ロードマップ」を同年7月に策定しました。

■水素サプライチェーンの広域展開イメージ



道内では、平成 27 年度から、苫前町で風力発電、鹿追町と帯広市で畜産系バイオガス、白糠町と釧路市でダムの小水力を活用した水素の製造や利用等に関する国などの実証事業が行われており、平成 29 年 1 月には、鹿追町環境保全センター内に「しかおい水素ファーム」が開所しました。

また、平成 28 年 3 月に道内で初めて燃料電池自動車(FCV)と移動式水素ステーションを導入した室蘭市内では、同年 11 月には、民間の共同企業体が小学校跡地を活用した分譲地で、エネファームを取り入れた街区「エネファーム街区（10 区画）」を整備されました。今後、これらの実証地域や先進地域を中心に、水素社会の形成に向けた取組の加速が期待されます。

■水素サプライチェーン構築ロードマップ

ビジョンに掲げた北海道の地域特性を踏まえた水素サプライチェーンの構築の着実な推進するため、当面の手立てとスケジュールを示すロードマップを策定しました。

【STEP 1 (~2020 年頃) 】	【STEP 2 (~2030 年頃) 】	【STEP 3 (~2040 年頃) 】						
水素の利活用の促進と地産地消を基本とした水素サプライチェーンモデルの構築 ①エネファームの導入促進 ②FCVの導入促進、水素ステーションの整備促進 ③地産地消を基本とした水素サプライチェーンの検討	水素サプライチェーンの広域展開 ・実証を踏まえた地産地消を基本とした水素サプライチェーンの広域展開 ・実証を踏まえたモデルの他地域への水平展開	再生可能エネルギー由来水素のサプライチェーンの構築 ・再生可能エネルギー水素の全道的なサプライチェーンの構築 ・製造される水素に余剰がある場合は、道外にも供給						
<table border="1"> <tr> <th>目指す水準</th><th>●エネファーム～</th><th>2030 年に全世帯の 1 割程度普及</th></tr> <tr> <td></td><th>●FCV</th><th>～ 2030 年に 9,000 台程度普及</th></tr> </table>			目指す水準	●エネファーム～	2030 年に全世帯の 1 割程度普及		●FCV	～ 2030 年に 9,000 台程度普及
目指す水準	●エネファーム～	2030 年に全世帯の 1 割程度普及						
	●FCV	～ 2030 年に 9,000 台程度普及						

■エネファーム街区「武揚（ぶよう）の杜」（室蘭市）



■しかおい水素ファーム（鹿追町）



■移動式水素ステーションと燃料電池自動車



北海道クールアース・デイに道庁前で展示

＝ 2 阿寒国立公園満喫プロジェクト

2016（平成 28）年3月に、政府により「明日の日本を支える観光ビジョン」がとりまとめられ、訪日外国人旅行者数を 2020（平成 32）年までに 4,000 万人とすることが新たな目標として掲げられました。

国立公園は、豊かな自然に加え、地域に根ざした生活文化や地域産業、食等の魅力ある観光資源を有している一方で、これまで十分にそのポテンシャルが発揮されていなかったという課題もありました。そのため、同ビジョンでは『国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を図る』ことが掲げられ「国立公園満喫プロジェクト」として、2020（平成 32）年までに訪日外国人を惹きつける取組を計画的・集中的に実施し、訪日外国人の国立公園利用者数を 2015（平成 27）年の年間 430 万人から 2020（平成 32）年には2倍以上の 1,000 万人に増やすことを目指すこととされました。

この目標を達成するため、全国の国立公園の中で先行的・集中的な取組を実施する国立公園の一つとして「阿寒国立公園」が選定（平成 28 年7月）され、関係機関や団体などと連携して実行計画となる「ステップアッププログラム 2020」を策定（平成 28 年 12 月）し、2016（平成 28）年度から5ヶ年計画で施設整備やプロモーションなど、具体的な取組を推進しているところです。（「阿寒摩周国立公園」に名称を変更（平成 29 年8月））

火山と森と湖が織りなす原生的な自然を堪能する

原生的な自然の世界を堪能！

- ◆ 世界最大の球状マリモの群生地である阿寒湖
- ◆ 世界レベルの透明度を誇る摩周湖
- ◆ 今なお活発な火山の山々
- ◆ 麓に広がる深い森
- ◆ そこに息づく動物たち



取組方針①

原生的な自然で過ごす「上質な時間」

眺望や居心地のよい宿泊施設、展望施設、カフェでの滞在、それぞれ特色の異なる温泉での保養など、原生的な自然の魅力を実感しながら上質な時間を過ごす。



眺望や静寂な雰囲気を楽しめる場所へのカフェの併設



富裕層層をターゲットとした宿泊施設の誘致



温泉街の再生



取組方針②

原生的な自然の「新たな活用」

カヌーやトレッキング、バードウォッチングなど、原生的な自然への新たなアプローチも含めたローインパクトなアクティビティを通じ、自然の雄大さやパワー、生きもののたくましさ直接ふれる。



マリモ観察ガイドツアー、聖地「鎮路川」でのカヌーツアー
雲海ツアー、静かな湖畔でのグランピング



新たな魅力地点につながる歩道の整備



エコミュージアムセンターの再整備



地域の魅力を生かした



ロングトレイルや



サイクリングロードの設定



取組方針③

「アイヌ文化」の体感

古くから伝わるアイヌの祭事や伝統文化など、我が国の先住民族であるアイヌの文化を体感する。



アイヌの思想・精神に沿った
ツアー・プログラム



＝ 3 民間事業者等との協働取組の推進

道では、道民、事業者、NPO等の民間団体などの各主体と連携し、自発的な環境保全活動の促進や、環境教育の推進に努めています。

平成21年4月のアサヒビール（株）をはじめとして、平成21年11月に北海道コカ・コーラボトリング（株）、平成22年12月に（株）サッポロドラッグストアー、平成23年2月に（株）ニトリホールディングスの各企業と協定を締結し、（公財）北海道環境財団などを通じて、民間団体等が実施する環境保全活動への支援を実施しています。また、平成28年末には、北海道コカ・コーラボトリング（株）からの寄付が累計1億円を突破しました。

また、道内の小・中学生を対象に実施している「キッズISO14000プログラム事業」では、事業を開始した平成18年度から平成28年度までに1万人を超える児童・生徒がプログラムを受講し、地球温暖化をはじめとする環境問題の解決に向けた取組を実施しています。その実施にかかる費用は、多くの道内企業からの支援によりまかなわれていますが、今までに延べ217の企業等から支援を受けています。年々、単年度の協力企業等の数も増えていることから、道内企業の環境に対する意識の高まりがうかがえます。

